

竹川橋
笛川橋

フ、盪嗽シテ神路山ニ入ル。○中略

宇治橋ハ長五十一間半、幅四間半、兩端ニ鳥居アリ、高五間餘、廣三間餘ナリ、

〔和爾雅地理下〕伊勢國度會郡 御祓橋ミソギガハシ

〔神都名勝志一〕禊川橋飯野郡漕代村大字稻木と、多氣郡齋宮村大字竹川との間なる、郡界を流る、禊川に架せり、

中世までは齋宮群行及勅使、例幣使參入等の時、大神宮司の卜部、此の川にて修禊したりき、故に禊川の名あり、又多氣川、竹川、稻木川なども稱せり。○中略 案するに此の川は、即古の櫛田川なり、

〔催馬樂〕呂 竹河 二段、拍子各七、合十四空拍子、

たけがはのはし、のつめなるや、はし、のつめなるや、

花ぞのにはれ、花ぞのに、われをばはなてや、われをばはなてや、めざしたぐへて、

〔催馬樂入文〕下今按に○中略 竹川橋は伊勢國多氣郡齋宮にて、今に其所に笛川も、竹川も、花園村

と云もありて、各其名のこりたり、

〔倭訓栞中編十三〕たけかはうたふ うたひ物に竹川あり、伊勢國多氣郡の川なり、橋の爪なる

花園といへるも、齋宮の邊にあり、其川大神宮式に所謂多氣川、今云處の稻置川是也、飯野郡多氣郡の境にて、西を稻木川といふ、東を竹川といへり、

〔神風小名寄〕下笛川 齋宮の里に在、むかしはまらさ、今は川といふべき程にもあらぬ細き流なり、繪馬のある所より半町許東の町中に侍る、小さき橋を今も笛川の橋といふなり、

〔遊囊贖記七〕齋宮ハ吳竹ノ世々ノ都ト詠ゼシモ、今ハ只村ニ其名ヲ傳ルノミ、笛川ノ橋ハ音絶テ、

御溝ノ池アヤメモ知レズ、

〔尾張名所圖會後編二〕起川

尾張國
起川舟橋

村富田の西なる木曾川をいふ、中略船渡リハ晝夜絶間なく、公私の旅人往來、將軍家御上洛の節と、朝鮮人來聘の時ハ、舟橋をわたす、數百艘